

大学生が子ども期に体験した衣生活・被服製作の実態と 大学における被服実習への意識

新 實 五 穂

1. はじめに

2017年6月に厚生労働省から発表された人口動態統計によると、2016年の出生数は97万6979人であり、統計を取り始めて以来100万人を初めて割り込んだ¹。また2016年の合計特殊出生率は1.44で前年を0.01ポイント下回り、政府が2015年に掲げた希望出生率の1.8には及ばなかった²。日本社会は1970年代半ばより出生数が減少傾向にあり、晩婚化や婚姻件数の低下の影響もあって長らく少子化に陥っている。他方で、少子化が進んだ結果、子ども1人にかかる養育費は増大したと言われる。1990年代後半以降、両親に加え父方と母方の祖父母といった6人の支出者が1人の子どもにさまざまな品物を買って与える行為は「6ポケット」と称され³、より高価なものを手に入れられる環境下に子どもが置かれていると見なされた。また子ども服の市場では、「ファッションの低年齢化」や「子ども服のファッション化」の流れが加速し⁴、高いデザイン性を備えた商品が供給され続けている。2011年には欧米の高級ブランドが相次いで子ども服に参入し、日本をはじめとするアジア圏での生産や販売を行うことが報じられた⁵。

しかしながら、玩具メーカーの株式会社バンダイが0歳から12歳までの保護者2000人に対して2009年12月に実施した調査では、子どもにかかる1年間の衣料代は平均4万900円であり、2004年8月に行った前回調査の5万6305円から1万5千円以上も減額している。さらに子どもの1年間の衣料代は、3万円以下という回答が6割近くに上った。これらの動向は、高級路線の百貨店から安価で品揃えがよい量販店へと購入場所が移行し、ファストファッションが活用されていることの証左であると指摘されている⁶。実際、政府の家計調査において2人以上からなる1世帯あたりの「子供服」の年間購入数量と平均価格に目を向けてみると、1994年には4.095着を1着あたりの平均1万1708円で購入していたのに対し、2016年には3.239着を1着あたりの平均6481円で購入している⁷。数量や単価が下がっているのは勿論、約20年間で2万7千円ほど子ども服への出費が減ったことを確認できる。

このような子ども服の購入実態をはじめ、選択・購入に影響を与える要因や着装行動における需要など、子ども期の衣生活を明らかにする研究は既に少なからず行われている。本研究との関係から、質問紙法を用いた、子ども服をめぐる社会文化的・心性的研究に着目してみると、子ども服の選択・購入の場面で重要視する項目を調査するものが多くなっている⁸。加えて、選択・購入時には子どもを取り巻く保護者、とくに母親の影響力が大きいと推察されるため、母親を調査対象にしたものが大半を占めている⁹。また従来の研究において、子どもを調査対象とする場合、2歳から4歳頃に衣服への好みが生じ始めると考えられていることもあり¹⁰、2歳以上の子どもを対象にしたものが主である。一方、小学生や中学生などの児童生徒への調査も継続的に行われてはいるものの、数が少ない上¹¹、服飾流行への意識や着装の様相を探るにとどまっているため、調査結果を教育内容にどのように生かしていくことができるのが課題とし

て挙げられる。さらに調査対象が大学生になると、回答者が5、6歳の子どもを持つ親になったという想定で、自身と子どもの衣類とで選択・購入時にどのような意識の差が見られるかが分析されており¹²、自身の子ども時代を振り返る調査にはなっていない。

ゆえに本研究では、お茶の水女子大学の学部学生への質問紙調査を通して、子ども服の選択・購入をめぐる実情について分析することはもとより、服を手作りする行為および製作技術に対する意識を考察することを目的とする。そして大学での被服製作に関する実習に反映できる事柄を明らかにし、今後の授業内容や教授方法、教材開発に役立てていきたい。つまり本研究の目的は、授業改善に役立てるため、子ども期の衣生活や被服製作の経験を探りながら、大学における被服製作実習への意識を把握することである。なお、大学で開講されている実習と講義の授業を連関させることも、本研究の目指すところである。現在、お茶の水女子大学生活科学部では2年次以上の学生を対象として、「被服製作実習」・「服飾制作実習」・「服飾文化実習」といった実習が開講されている。実習にどのような内容が求められ、いかにして学生の要望を反映できるかについては、授業の担当教員らによる履修者への調査が実施され、分析がなされ始めている¹³。本研究では、被服関連の実習を履修した経験がまだない1年次の学生が多く受講する、生活科学部共通科目「生活科学概論」での質問紙調査を実施し、実習の未履修者が持つ要望の分析を試みたい。というのも、大学における被服関連の実習を時代に即して改善していくには、これから授業を履修する学生が積み上げてきた被服体験と被服製作への意識を把握することが重要であると考えからである。

調査を実施する場として選択した授業「生活科学概論」では、生活科学部の基本理念である文系・理系といった学問領域に捉われず、生活者の視点から生活を見つめ直し、生活の質（QOL, quality of life）を考えることが授業の主題となっている¹⁴。よって各学科・講座の担当教員が一つのテーマに沿って授業を展開しており、2017年度の授業テーマは「年齢・世代」であった。同授業の中で、本研究者は「衣生活と年齢・世代」と題して、現代社会における子ども服のデザインの特徴や安全性の問題、さらには子ども観や子ども服の歴史的な変遷を2回にわたって講義した。

2. 調査方法

2017年6月5日の「生活科学概論」の授業内で質問紙による調査を実施し、95名の履修者のうち88名の学生から回答を得た。回答者は文教育学部の人間社会科学科に所属する1名の学生以外、生活科学部に所属する学生であり、大半は1年生の学生であった¹⁵。

質問紙への調査は「衣生活と年齢・世代」をテーマにした講義の際、衣服と年齢の関係を考える契機として、学生自身に子ども期と現在の被服体験や意識を振り返ってもらう形式で回答をさせた。また回答にあたっては、日本で最大の母親向け情報サイト「ママスタジアム」にて2017年4月に行われた、子ども服に対する母親の意識調査の結果を授業内で事前に踏まえた上で¹⁶、学生に自身の子ども期の服装を振り返ってもらった。

質問紙による調査内容は主に三つの部分からなり、「子ども服」・「手作り」・「被服製作」に関する質問によって構成されている（表1）。全26問の質問のうち、原則、選択肢がある質問は複数回答を不可とし、選択肢がない質問は自由記述とした。子ども服に関する質問（14項目）では選択肢がある質問は12問に自由記述が2問、手作りに関する質問（6項目）では選択肢がある質問は5問に自由記述が1問、被服製作に関する質問（6項目）では選択肢がある質問は1問に自由記述が5問という質問形式になっている。

3. 調査結果と考察

3-1. 子ども服に関する質問

子ども期の衣生活について具体的に質問する前に、子どもとは何歳から何歳までを指すかを尋ねた。前者の回答は0歳から4歳までの間に全ての回答が収まり、子どもは0歳から始まるという回答が5割以上であった¹⁷。後者の回答は5歳から18歳までと幅広く、ばらつきが見られたものの、12歳までが最多であった¹⁸。ゆえに半数以上の回答者は0歳から12歳まで、つまり誕生してから小学校を卒業するまでを子ども期と見なし、その年齢の期間に着用された衣類を子ども服と見なして回答している前提が明らかになった。

上記の設問を除いて、子ども服に関する質問は四つの内容に大別できる。一つ目は服装への興味・関心、二つ目は衣類の選択・購入、三つ目はお下がりやりサイクルの経験、四つ目は服にまつわる思い出について尋ねるものである。最後の質問内容のみが自由記述での回答であり、嬉しかった思い出と困った思い出をそれぞれ質問した。

まず子ども期の服装への興味に関しては、その関心の有無と関心が芽生えた時期を尋ねた。結果として、服装に少しでも関心を持っていた回答者は7割近くに上り¹⁹、関心が芽生えた時期は小学生や中学生の時期が多かった²⁰。換言すれば、学童期から青年前期にかけて服装への関心が培われていった者が6割を占めた。ただし、小学校を卒業する以前に着用していた衣類を子ども服と見なす回答者の前提を考慮すれば、中学生以降に服装への関心が芽生えた者が5割を超えており、半数の者は興味や関心がない状態で子ども服を選択・購入し、着用していたという結果になった。

次に子ども服の選択・購入に関しては、選択時の決定者や購入時の影響要因、購入場所をそれぞれ尋ねた。服を選ぶ際に自身の好みが尊重されたかどうかに関しては、基本的に自身の好みに合った服を購入できていたという回答者が8割近くとなった²¹。さらに自分以外で誰の好みが尊重されたかについては、「母親」がほぼ9割の回答数を占め、「兄弟・姉妹」や「父親」、「祖母」などは、いずれもわずかな回答数であった²²。また服を購入する際の影響要因として、購入時に参考にした情報は回答が多い順に、「お店からの情報（ディスプレイ）」が41名（全体の43%）、「家族からの情報」が22名（23%）、「雑誌の情報」が17名（18%）、「インターネットの情報」と「友人からの情報」が各4名（4%）、「テレビの情報」が1名（1%）となった²³。その他を選択した回答者には、どんな情報も参考にしなかったという回答が多かったが、自分の意思で服を選んだ経験が無く、母親から与えられた服をそのまま着用していたという事実を挙げる者もいた。続いて、商品の購入で重視する要素は「デザイン」が5割を超えて最も多く、次いで「機能性」や「価格」、「品質」、「素材」の順であった²⁴。上記の回答結果から、自身の好みや店舗からの情報をもとに、母親と相談して母親の好みも尊重しつつ、商品の機能性や価格よりもデザインを重要視して服の選択・購入をする姿勢が確認できた。

さらに先述した要因に影響を受けながら、どこで服を購入していたか、そしてその購入場所が固定されていたかについては、表2のような結果になった。服の購入場所は「ショッピングモールにある店」が最多で、「ファストファッションの店」や「デパートにある店」が続き²⁵、購入場所は流動的ではなく、基本的には固定されていた回答者が6割を超えた。要するに、回答者の半数近くは、ショッピングモール内にあるほぼ決まった店舗で服を常に購入していたと言える。

服の購入方法や入手先とも関連する、お下がりやりサイクルの経験に関しては、経験の有無とお下がりの場合は誰から譲り受けたかを尋ねた。お下がりの服を着た経験がある者の合計は6割を超え²⁶、その服

を誰から譲り受けたかは、「姉妹」が最も多く、次いで「従姉妹」や「友人」という結果であった²⁷。その他を選択した回答者も多く、母親や母親の友人の子ども、近所の知人、回答者自身の友人や知人の姉などから服を譲り受けた経験があるとの回答だった。またリサイクルの経験の有無は、経験がある者の合計が6割近くに上った²⁸。お下がりのお洋服を着たことがある者と自分が着ていた服をリサイクルしたことがある者とは、ほぼ同数であった。

最後に、子ども服にまつわる嬉しかった思い出と困った思い出を尋ねた(表3)²⁹。なお、子ども服への要望がある場合は、それについても回答する方式とした。前者は「購入」や「着装」、「お下がり・手作り」に関する事柄が挙げられたものの、最も回答数が多く具体的な内容であったのは「購入」に関する思い出であった。結果として、着用した服を褒められた経験が良い思い出に繋がる傾向にあり、その背景には自身で選んだデザインの自分のための服および流行を取り入れた自分好みの高価な服を購入できた事実、さらには複数あるいは安く服を購入できた事実が存在していた。また「お下がり・手作り」については、回答者自身が素敵な服を数多く譲り受けたことや服の手作り・リメイク・修繕を家族にしてもらったことは勿論、自身のお下がりや手作りの服が周囲の人々に歓迎されたことも挙げられた。

他方で、後者の困った思い出(要望を含む)は服の「サイズ」、「デザイン」、「安全性・機能性」、「素材」、「着装」、「お下がり・手作り」に関する事柄など、より具体的で多岐にわたる内容になっている。とくに「サイズ」と「デザイン」は双方に不満を抱える回答者が多かった。体形がすぐに変化してサイズ選びが難しい上、サイズに適したデザインの服が似合わなくなったり、好みに合わなくなったりする速度が速いといった、子ども服に特有のサイズとデザインとの不均衡が挙げられた。さらに「デザイン」については、流行りの衣類や購入先が勧める商品は他の子どもとデザインが被りやすいことや、子どもらしさを演出するようなピンク色や花柄、リボンやフリル、輝く装飾や英語のロゴなどが多用されて、どれもデザインが似通っているという指摘があった。加えてデザインとの兼ね合いで、事故を誘発する危険性の高い服を、動作を妨げ、着脱に困難を伴う機能性の低い服を、肌への刺激があり着用できない素材の服を生むという意見もあった。「素材」についてはすぐに服が破れたり、汚れたりする点も挙げられた。このような問題に、自分以外の好みも関係してくるため、子ども服に対する不満は増長されるようである。たとえば、好みや気分合わない服を着用させられた事実や、同じコーディネートばかりをしていた事実に対する不満を抱く回答者がいた。これはお下がりのお洋服に対する不満、つまり好みやサイズが合わないばかりか状態が悪い服、ともすれば同じデザインの服を着続けなければならないことへの不平とも似通っている。また「着装」に関しては、私服での通学者をはじめ、学校の制服で大半を過ごしている者も、私服の際のコーディネートを考えるのが辛かったという意見があった。これらの不満を受けて、安く多様なデザインの子どもの服や長く着続けられる子ども服、子ども観を押しつけないユニセックスなデザインの開発などが要望として挙げられた。いずれにせよ子ども服にまつわる思い出、とりわけ困った思い出は、回答者の半数が購入時に最も重視しているのがデザインの項目であったように、服のデザインを軸として組み立てられていることがうかがえた。

3-2. 手作りに関する質問

手作りに関する質問は全6問で、まず子ども期に手作りの衣類を着用した経験があるかを、次に手作りの衣類における長所と短所を、最後に授業以外でこれまでに身に着けるものを自分で手作りした経験があるかを尋ねた。手作りの衣類を着用した経験に関しては、経験がある者の合計は6割を超えた³⁰。さらに着用した衣類を具体的に尋ねると、「防寒具(マフラー・手袋・帽子など)」が28名(29%)、「上衣(セー

ター・シャツなど」が21名(22%)と多く、次いで「装飾品(アクセサリ類)」が16名(17%)、「下衣(ズボン・スカートなど)」が9名(9%)、「脚衣(靴下・タイツなど)」が1名(1%)であった³¹。先に述べた以外にも、その他の項目で浴衣やエプロン、幼稚園のスモックといった回答が挙げられた。

手作りの衣類における長所(メリット)と短所(デメリット)に関しては、手作りは稀有で得難い自分だけのものである反面、品質が劣り、流行との兼ね合いを意識させられるという結果が浮き彫りになった(表4)。手作りのメリットは「希少価値」を挙げる回答者が最多で、続いて「デザイン」や「価格」、「素材」、「品質」であった³²。その他を選択した回答者には、サイズが自分の身体にあったものになる点や作るという作業自体が楽しく、思い出になる点、自分のためという愛情を感じ、嬉しいという感情に関する点を挙げる者がいた。他方で手作りのデメリットは「品質」や「流行との関係」が多く、「素材」や「デザイン」、「機能性」が続く結果となった³³。その他を選択した回答者には、作るのに手間や時間がかかる上、耐久性がないので一度駄目にしてしまったら購入できない点を挙げる者がいたのに対し、手作りの短所はとくにないと回答する者もいた。

授業以外で身につけるものを手作りした経験に関しては、経験がない者の合計は6割に上った³⁴。また、経験がある場合は手作りした具体的なものについて小学校・中学校・高等学校・大学と成長段階に分けて尋ね、経験がない場合はその理由について尋ねた。その回答内容は表5のようになった³⁵。中学生の時期に浴衣や半纏、高校生の時期に部活や体育祭・文化祭で使用する衣装を手作りした特徴は見られるものの、手作りした具体的なものは、成長段階によってデザインや製作技術の難易度に差はあるのかもしれないが、大差はない結果となった。また手作りの経験がない理由として、技能や機会、発想の不足が挙げられる一方で、安価で品質が良く、耐久性もある既製品を購入した方が手間や時間が省けるという、手作りの衣類におけるデメリットと通底する意識が確認できた。さらに身につける衣服となると、作ることに、実際に着用することにも抵抗があるといった意見もあった。

1990年代後半に誕生した回答者の多くは、子ども期に手作りの衣類を冬期の防寒具や上半身に身につける衣服として活用し、その希少価値および自分だけのデザインやサイズの服であることを実感した。しかし自身で身につけるものを手作りした経験があまりない背景には、製作技術や知識の欠如以外にも一つの理由が推察できる。先に触れたように、子ども期の衣類の主な購入先は2000年代のショッピングモールやファストファッションの店舗にほぼ固定されていた。そこでは手作りのデメリットを打ち消すような、程良い品質かつ流行を加味したデザインの既製品が安価で大量に販売されており、回答者はそれらの衣類に囲まれて育ったからであろう。

3-3. 被服製作に関する質問

手作りに関する最後の質問との関係で、まず大学入学以前の授業における被服製作の経験を、次に大学での被服製作に関する授業への需要や要望を尋ねた。前者のこれまでの家庭科の授業において製作した身につけるものと被服分野で役立った製作技術に関しては、成長段階に応じて質問をした(表6)。製作物は表6のように、「衣服や装飾品」・「鞆や小物」・「なし(覚えていない)」に分類された。エプロンやマフラー、アクセサリ類を製作した小学校と比較し、中学校や高等学校では帽子やズボン、スカート、オーバーオール、ブラウス、ノースリーブパーカー、パジャマなど多様な種類のを製作している。加えて日本の服飾文化への理解を深める目的もあってか、高等学校では浴衣や半纏、割烹着、甚平等和服関連の製作物が見られることが特徴的である。反面、年齢が上がるにつれ家庭科の被服分野の授業がほぼなかったり、授業時間数が少なかったりして、製作経験がなかったり、記憶が曖昧で覚えていなかったりと

いう回答が目立った。さらに表6から読み取れるように、被服分野の製作技術に関してはミシンやアイロンの使い方、基本的な手縫いの仕方やボタンの付け方、装飾の仕方、編み物、サイズの測り方は小学校・中学校・高等学校で共通している。そこに型紙の作成法や使用法、パソコンでのデザイン、染織や素材の知識などが加わっていく傾向にある。なお具体的な製作技術ではなく、ブラウスをリメイクしたエプロンをはじめ、バッグやハンカチ、ブックカバー、ティッシュケース、筆箱などの製作物によって役立った被服製作の技術を意識している回答者も少なからず存在した。

また、大学で開講されている被服製作の授業を履修するかどうか（1年次以上は履修した経験の有無）に関しては、積極性に違いはあっても履修を前向きに考える者が7割以上の結果になった³⁶。続いて、回答した理由について尋ねると、表7のような回答結果になった。授業の「履修」に関すること以外では主に四つに大別でき、一つ目は「被服製作への興味・関心」、二つ目は「製作する対象」、三つ目は「製作能力」、四つ目は「手作り」に関することである。一つ目の「被服製作への興味・関心」に関しては、履修を希望する場合、物作りや細かな作業が好きで服作りに楽しいイメージや将来的に役立ちそうな技能のイメージを既に持っている回答者が多いものの、授業のような機会がないと自分では経験や挑戦をしないという意見があった。逆に履修を希望しない場合、これまでの授業経験や製作機会の欠如から、家庭科および服作りへの嫌悪と無関心が先立つ様子がうかがわれた。二つ目の「製作する対象」に関しては、具体的な製作物に言及した回答とともに、好きなデザインで自分だけのものを製作できる利点や製作経験がないものを製作することへの興味を述べる意見があった。三つ目の「製作能力」に関しては、教員の指導の下に新たな技能を習得したいという前向きな回答がある一方で、不器用で不得手なイメージに基づく大変さや困難さ、不安から、既製品を購入した方が良いという後ろ向きな回答もあった。また四つ目の「手作り」の回答にも関連するが、手作りのデメリットの際にも挙げられた、手作りの衣類に対する羞恥心や着用への抵抗感が、一部の回答から読み取れた。このような意識は、後述する質問の回答でも見受けられ、日常的に着用する衣類が自身や周囲の人々の手作りであることに嫌悪感を抱く者がいるという事実が明確になった。

最後に、大学での被服製作の授業がどのような内容であれば受講するか、さらにはその理由を尋ね、回答結果は表8のようになった。表8では右カラムの前半が「要望」で、後半がそのように要望した「理由」を各項目が対応するようにしてまとめている。要望に関しては、「授業で扱う内容」や「製作する対象」、「製作能力」、「授業の形態」について主に回答があり、次のような内容であった。「授業で扱う内容」に関しては、ミシンの使い方や生地を選び方、実生活で役立つ服の修繕や補修の技術など基本的な知識や技術の習得を望む者がいたのに対し、パターンについては寸法の測定から型紙の作成までを学びたいという者も見られた。なお、家庭科教員免許の取得を目指す者には被服製作に関する実習が必修科目であることも関係し、知識や技術の教示の仕方を学びたいという意見があった。「製作する対象」に関しては、日常生活で長く着用でき、自分の好みに合ったものや、リメイクやアレンジの仕方を学べるものといった意見とともに、浴衣などの日常的に着用しない衣類や目に触れない部屋着、デザイン性の高い服を製作したいという回答があった。さらにワンピースやコート、スカート、シャツなどの他に、バッグやアクセサリなどの小物、子ども用衣類の作り方を学びたいという具体的な要望も見られた。学習内容や製作物に関しては難易度がさまざまであったものの、「製作能力」に関しては初歩的で基礎的な知識や技術を十分に学べることを重視する意見が多かった。このような意見との関連で、「授業の形態」に関しては教員の適切な説明や丁寧な指示など、サポートが手厚く、履修者全員に目が行き届く教員数であることが挙げられた。加えて、経済的にも時間的にも負担が少ない授業課題や進度であること、技能のレベルだけで評価されな

いことも望まれた。

上記のように要望をした理由に関しては、要望と同じく「授業で扱う内容」や「製作する対象」、「製作能力」、「授業の形態」という項目で分類し、次のような内容であった。「授業で扱う内容」に関しては、好みのデザインや自身が欲しいものを形にできることにやりがいを感じる様子で、大学で機会が持てるならば前向きに学習したいという意欲ある意見があった。他方で、「製作能力」に関連するが、被服製作への苦手意識を既に持っている、興味があっても周囲との関係で授業へ参加するのは気が引けるといった意見が見られた。また「製作する対象」に関しては、これまでの家庭科の授業で製作したものがほとんど使用されないでいる状況のため、日常生活で活用できるものを製作したいという希望が一樣に察せられた。さらに製作したい具体的なものを挙げた背景には、好みのデザインやサイズに合った衣類を入手したいという要望はもとより、衣類を無駄にしたいくないという経済的な観念や将来、自身が母親になった時を想定してという回答があった。このような日常生活で役立つという考えは、「製作能力」に関する回答でも確認できた。実生活で使用・活用できる基礎的な製作技術でないと、授業以外では用いなくなるため、基本的な技術の習得を望むという意見であった。ただし、「製作能力」に関しては苦手意識や経験不足による不安から、独力での服作りは不可能という前提での回答が多数あった。服作りに失敗はつきものなので、経済的にも精神的にも被服製作は負担が大きいと述べる回答者もいた。そして「授業の形態」に関しては、従来の家庭科の授業経験を通しての回答がいくつか見られた。たとえば、全体的な指導であると詳細まで理解していても授業が進行してしまうという意見や、1人の教員しかいないと質問することができずに効率が悪いという意見があった。時間という観点では、実習の時間に余裕があれば技術や能力に自信がなくても、他の授業と両立しながら自身のペースで製作物を作ることができるという意見や、「製作能力」との関係で実習の授業は短期集中形式が望ましいという意見があった。

以上のような回答結果から、大学での被服製作の授業に対する主な要望を総括すると、次のように言える。実生活や将来的に役立つ基礎的な知識と技術を習得しつつ、実際に身に付け、日常的に活用できる衣類を製作したい、そこに自身の好みや自分が選択したデザインが生かされると製作意欲を維持できるといったものである。そして教員の分かりやすい説明や個別に対応できる手厚い指導を実現するべく、教員の配置人数や授業時間数に工夫を凝らして欲しいとの意向が読み取れる。ただし、大学入学以前の家庭科の授業における被服製作での経験に加え、子ども期の衣生活の中で手作りの衣類に対するイメージが培われている影響などにより、授業参加への積極性や主体性および授業内容に求める難易度に学生間で差が生じているということも言えるであろう。

4. おわりに

今回の質問紙調査では「子ども服」・「手作り」・「被服製作」に関する全26問の質問を通して、子ども期の衣生活を振り返り、被服を製作する行為への意識を探った。回答者の7割近くが服装に関心を持ち、その半数以上は小学生から中学生の時期に服装への関心が芽生え、0歳から12歳までに着用した服装を子ども服と見なす前提での回答であった。まず子ども服に関しては、自身や母親の好みと店舗からの情報を活用しながら、デザインを最も重視して、ショッピングモールにあるほぼ決まった店舗で衣類の購入をしており、子ども服にまつわる思い出も購入やデザインに関するものが多かった。また姉妹や従姉妹などから譲り受け、お下がり着の服を着用した経験者、さらには自身の服をリサイクルした経験者はいずれも回答者の6割ほどであった。次に手作りの衣類に関しては、6割を超える回答者に着用経験があり、そのうち防

寒具や上衣の着用が5割を占めた。ただし、希少価値を感じながらも品質不良や流行遅れ、流行との差異を認識しており、授業以外で身につけるものを手作りした経験が無い者は回答者の6割に上った。このような手作りに対する印象は、実生活で被服を製作する行為はもとより、実習の授業に求める製作内容・技術に影響を与えていた。最後に被服製作に関しては、7割以上の回答者が大学で被服製作の実習を履修することに前向きであった。しかしながら、授業への積極性や実習内容に求める難易度に差があり、これまでの被服製作の授業経験をはじめ、服作りや手作りに対する印象にも左右される結果となった。そして日常生活で活用できる基本的な技術（補修や修繕を含む）とそれを生かした着用できる製作物であれば、被服を製作する行為は必要と考える回答者の姿勢が確認できた。

本研究の今後の課題としては、以下のような事例が挙げられる。質問項目の設定において、とくに子ども服に関する質問は選択・購入の様子を尋ねる基本的な内容にとどまっていたため、経済的な内容を含め、より詳細な質問項目を設定したい。一方で、被服製作に関する質問は、具体的な内容を分量的にも多く記述して欲しいと想定していたが、質問紙の後半が自由記述で回答するものばかりであったことも関係し、具体性や詳しい内容に欠けるものが散見された。質問によっては複数回答や無回答も見られたため、質問項目や選択肢の設定、記述の形式については、どのように尋ねると効果的であるかを再検討し、いっそう精査を進めていきたい。また被服製作に関する実習を履修する前の1年次の学生に対して質問紙調査を継続的に行い、調査結果をカリキュラム開発や授業内容の改善に役立てていくことを考えている。時間的な推移によって、回答者の意見がどのように変化していくかを引き続き調査し、時代に即した要望を伺い上げて授業内容に反映できる仕組みを、講義と実習の双方の授業を上手く活用して構築していきたい。

註

- 1 厚生労働省「平成28年人口動態統計月報年計（概数）の概況」、第3表・第4表「出生数の年次推移」（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai16/index.html>）2017年8月22日アクセス。
- 2 厚生労働省「平成28年人口動態統計月報年計（概数）の概況」、参考「合計特殊出生率について」、49頁（<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai16/index.html>）2017年8月22日アクセス。
- 3 白土健「少子化時代における『こども産業』の現況」、『大正大学人間環境論集』2号、大正大学、2015年、51頁。子ども服業界では両親と父方・母方祖父母の「6ポケット」とよく言われるが、博報堂が2006年2月から4月に行ったインターネット調査によると、6ポケットに叔父・叔母やその他の親族、友人なども加え、子ども1人あたり平均約7ポケットを持ち、ポケットの合計は年間約43万円であることが明らかになった。博報堂BaBUプロジェクト「母親に聞いた子どものポケット実態調査」、2006年8月（<http://www.hakuhodo.co.jp/pdf/2006/20060803.pdf>）。
- 4 細谷佳菜子、服部由美子、浅野尚美、柘植泰子、森透「児童生徒の服装に対する意識と着装行動」、『福井大学教育実践研究』32号、福井大学、2007年、157頁；三浦友里、吉田紘子「幼児服の選択に影響する環境要因」、『茨城大学教育学部紀要、人文・社会科学・芸術』58号、茨城大学、2009年、72頁。
- 5 朝日新聞「高級ブランド、子供服に注目 グッチ、フェンディーetc」、2011年1月14日（<http://www.asahi.com/fashion/beauty/TKY201101140194.html>）2017年8月22日アクセス。
- 6 株式会社バンダイ「バンダイこどもアンケートレポートVol.174」、2010年2月、4頁（<http://www.bandai.co.jp/kodomo/pdf/question174.pdf>）。
- 7 政府統計「家計調査2016年 <品目分類> 1世帯当たり年間の品目別支出金額、購入数量及び平均価格時系列（1994年～2016年）二人以上の世帯」、統計表10「被服及び履物〔和服〕～〔シャツ・セーター類〕」（<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001183264>）2017年8月22日アクセス。

- 8 乳幼児服の選択・購入に関する研究の経緯については、以下の論文に詳しい。小沢佳奈「乳幼児服のニーズに関する研究—母親のインタビュー調査から—」、『流通経済大学論集』51号(3)、流通経済大学、2016年、265-272頁。
- 9 質問紙調査とともに面接調査やフィールド調査などを用いて、母親と子どもを調査対象にした論考（大塚美智子、大久保春乃「母親とそのこどもの服飾に関する嗜好の相違」、『繊維製品消費科学』36号(4)、日本繊維製品消費科学会、1995年、341-347頁；前掲「幼児服の選択に影響する環境要因」、71-85頁）、ならびに母親と保育士を調査対象にした論考（佐藤希代子「乳幼児衣服についての意識調査—保護者と保育者の比較—」、『倉敷市立短期大学研究紀要』57号、倉敷市立短期大学、2013年、119-128頁）も見られる。しかし、母親のみの意識や価値観を調査対象にした論考（布施谷節子「乳幼児の衣生活の現状（第1報）衣生活の因子分析」、『日本家政学会誌』42号(6)、日本家政学会、1991年、545-550頁；布施谷節子「乳幼児の衣生活の現状（第2報）地域、年齢、出生順位が衣生活に及ぼす影響」、『日本家政学会誌』42号(6)、日本家政学会、1991年、551-558頁；山中大子、山口香、川端博子「母親の価値観が幼児服の購買行動に及ぼす影響」、『埼玉大学紀要』60号(1)、埼玉大学、2011年、71-78頁）が多い。
- 10 前掲「乳幼児服のニーズに関する研究—母親のインタビュー調査から—」、266頁。
- 11 前掲「児童生徒の服装に対する意識と着装行動」、157-165頁；服部由美子、吉川裕子、佐藤恵美、柘植泰子、細谷佳菜子「ローティーンの服装に対する意識と現状」、『福井大学教育地域科学部紀要（応用科学家政学編）』2号、福井大学、2011年、293-304頁。
- 12 田村和子「男児・女児服の選択に関する大学生の意識」、『Journal of Textile Engineering』59号(1)、日本繊維機械学会、2013年、15-24頁。
- 13 扇澤美千子、難波知子、成田千恵「被服製作実習の改善策の検討」、『茨城キリスト教大学紀要 I 人文科学』50号、茨城キリスト教大学、2016年、143-155頁。
- 14 お茶の水女子大学の2017年度「生活科学概論」シラバス（http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/index_search.cfm?jugyo=17D0001）2017年8月22日アクセス。
- 15 生活科学部に所属する学生の所属学科の内訳は、食物栄養が6名、人間・環境科が27名、人間生活が54名であった。また回答者の年齢による内訳は、18歳が48名（全体の55%）、19歳が23名（26%）、20歳が11名（13%）、21歳が2名（2%）、22歳が1名（1%）、無回答が3名（3%）であった。
- 16 「マmastajam」（<http://mamastar.jp/>）において「ママリサー—いまどきママリサー—」第14弾として行われた「キッズのファッション」のインターネット調査。調査項目の設計は博報堂こそだて家族研究所が行い、2017年4月3日から10日にかけて、マmastajamの利用者（子育て中の女性）の408名が回答した。回答者の年齢は20代以下が95名、30代が252名、40代以上が61名であり、長子の年齢は0～2歳が130名、3～6歳が148名、7歳以上が130名であった。
- 17 回答の内訳は0歳からが49名（56%）、1歳からが1名（1%）、2歳からが9名（10%）、3歳からが24名（27%）、4歳からが5名（6%）であった。
- 18 回答の内訳は5歳まで、8歳まで、9歳までが各1名（1%）、10歳までが4名（5%）、11歳までが1名（1%）、12歳までが53名（60%）、13歳までが4名（5%）、14歳までが1名（1%）、15歳までが13名（15%）、16歳までが1名（1%）、17歳までが2名（2%）、18歳までが6名（7%）であった。
- 19 回答の内訳は関心が少しあったが32名（36%）、関心があったが28名（32%）、関心がほとんどなかったが25名（28%）、関心がまったくなかったが3名（3%）であった。
- 20 回答の内訳は小学生が31名（35%）、中学生が25名（28%）、高校生が14名（16%）、小学校入学以前が9名（10%）、大学入学以降が8名（9%）、未だ関心がないが1名（1%）であった。
- 21 回答の内訳はやや尊重されたが38名（43%）、尊重されたが31名（35%）、ほとんど尊重されなかったが17名（19%）、まったく尊重されなかったが2名（2%）であった。
- 22 回答の内訳は母親が83名（89%）、兄弟・姉妹が5名（5%）、父親が3名（3%）、祖母が1名（1%）であった。この質問にはその他を選択した者が1名（1%）、複数回答者が5名いたため、総計は93件であった。なお、その他の回答内容は自分以外に誰の好みも尊重されなかったというものであった。

- 23 この質問にはその他を選択した者が6名(6%)、複数回答者が5名いたため、総計は95件であった。
- 24 回答の内訳はデザインが53名(56%)、機能性が16名(17%)、価格が11名(12%)、品質が6名(6%)、素材が5名(5%)、ブランドが4名(4%)であった。この質問には複数回答者が5名いたため、総計は95件であった。
- 25 この質問には「その他の店(しまむら)」や「その他(大人と同じブランド)」と回答した者が1名ずつ見られたが、店舗の形態が分からなかったため、このような回答を記入したと思われる。また同質問には複数回答者が6名いたため、総計は96件であった。
- 26 回答の内訳は時々あるが29名(33%)、頻繁にあるが27名(31%)、ほとんどないが20名(23%)、まったくないが12名(14%)であった。
- 27 回答の内訳は姉妹が21名(23%)、従姉妹が17名(19%)、友人が11名(12%)、兄弟が5名(5%)、従兄弟が3名(3%)、その他が17名(19%)であった。この質問には複数回答者が3名、無回答者が17名いたため、総計は91件であった。
- 28 回答の内訳は時々あるが39名(44%)、ほとんどないが27名(31%)、頻繁にあるが13名(15%)、まったくないが9名(10%)であった。
- 29 嬉しかった思い出には1名、困った思い出には3名の無回答者がいた。
- 30 回答の内訳は時々あるが45名(51%)、ほとんどないが23名(26%)、頻繁にあるとまったくないが各10名(11%)であった。
- 31 この質問にはその他を選択した者が9名(9%)、経験なしを選択した者が11名(11%)おり、複数回答者が6名、無回答者が1名いたため、総計は96件であった。
- 32 この質問には複数回答者が2名、無回答者が1名いたため、総計は93件であった。
- 33 この質問には無回答者が2名いた。
- 34 回答の内訳はまったくないが36名(41%)、時々あるが30名(34%)、ほとんどないが18名(20%)、頻繁にあるが4名(5%)であった。
- 35 回答者数は経験がある場合は38名(43%)、ない場合は31名(35%)、無回答は19名(22%)であった。
- 36 回答の内訳は機会があれば履修したいが54名(61%)、あまり履修したくないが19名(22%)、積極的に履修したい(履修した経験がある)が11名(13%)、まったく履修したくないが4名(5%)であった。

大学生が子ども期に体験した衣生活・被服製作の実態と大学における被服実習への意識

表 1 質問内容

項目	内容
子ども服に関する質問	<p>問1 あなたにとって子どもとは、おおよそ何歳から何歳までのイメージですか。 ()歳から()歳まで</p> <p>問2 子どもの頃にファッションやお洒落に興味がありましたか。 ①あった ②少しあった ③ほとんどなかった ④まったくなかった</p> <p>問3 あなたがファッションやお洒落に興味を持ち始めたのは具体的にはいつ頃ですか。 ①小学校入学以前 ②小学生 ③中学生 ④高校生 ⑤大学入学以降 ⑥未だ関心がない</p> <p>問4 子どもの頃に自身の服の購入(入手)において、自分の好みは尊重されましたか。 ①尊重された ②やや尊重された ③ほとんど尊重されなかった ④まったく尊重されなかった</p> <p>問5 子どもの頃に自身の服の購入(入手)において、自分以外で誰の好みが主に尊重されましたか。 ①父親 ②母親 ③祖父 ④祖母 ⑤兄弟・姉妹 ⑥友人 ⑦その他</p> <p>問6 子どもの頃に服を購入(入手)する際、何からの情報を主に参考にしていましたか。 ①雑誌の情報 ②インターネットの情報 ③テレビの情報 ④お店からの情報(ディスプレイ) ⑤家族からの情報 ⑥友人からの情報 ⑦その他</p> <p>問7 子どもの頃に服を購入(入手)する際、何を最も重視していましたか。 ①デザイン ②品質 ③価格 ④機能性(動きやすさ) ⑤素材(手入れのしやすさ) ⑥ブランド(店) ⑦その他</p> <p>問8 子どもの頃に服は主にどこで購入(入手)していましたか。 ①ファストファッションの店 ②子供用品の専門店(路面店) ③ショッピングモールにある店 ④デパートにある店 ⑤その他の店 ⑥リサイクルショップ(古着屋) ⑦フリーマーケット ⑧インターネット通販・オークションサイト ⑨カタログ通販 ⑩人からのもらいもの ⑪その他</p> <p>問9 上記の購入(入手)先は場所が固定されていましたか。 ①決まっていた ②ほぼ決まっていた ③ほとんど決まっていなかった ④まったく決まっていなかった</p> <p>問10 子どもの頃にお下がりの服を着た経験はありますか。 ①頻繁にある ②時々ある ③ほとんどない ④まったくない</p> <p>問11 それは主に誰からのお下がりの服でしたか。 ①兄弟 ②姉妹 ③従兄弟 ④従姉妹 ⑤友人 ⑥その他</p> <p>問12 子どもの頃に自分が着ていた服をリサイクルした経験はありますか。 ①頻繁にある ②時々ある ③ほとんどない ④まったくない</p> <p>問13 子ども服に関して嬉しかった思い出を一つ具体的に記述して下さい。</p> <p>問14 子ども服に関して困った思い出を一つ具体的に記述して下さい(子ども服への要望があったら、それについても記述して下さい)。</p>
手作りに関する質問	<p>問1 子どもの頃に手作り(ハンドメイド)のものを身につけた経験はありますか。 ①頻繁にある ②時々ある ③ほとんどない ④まったくない</p> <p>問2 それは主にどのような服飾ですか。 ①外衣(コートなど) ②上衣(セーター・シャツなど) ③下衣(ズボン・スカートなど) ④脚衣(靴下・タイツなど) ⑤防寒具(マフラー・手袋・帽子など) ⑥装飾品(アクセサリ類) ⑦身につけた経験はない(問1で④と回答した方) ⑧その他</p> <p>問3 手作りの服の最も良い点は何ですか。 ①デザイン ②品質 ③価格 ④機能性(動きやすさ) ⑤素材(手入れのしやすさ) ⑥希少価値 ⑦その他</p> <p>問4 手作りの服の最も悪い点は何ですか。 ①デザイン ②品質 ③価格 ④機能性(動きやすさ) ⑤素材(手入れのしやすさ) ⑥流行との関係 ⑦その他</p> <p>問5 授業以外で、これまで身につけるものを自分で手作りした経験はありますか。 ①頻繁にある ②時々ある ③ほとんどない ④まったくない</p> <p>問6 上記で「ある」と回答した方は作ったものについて教えて下さい(小学校・中学校・高校・大学の頃と分けて記入して下さい)。また「ない」と回答した方はその理由について教えて下さい。</p>
被服製作に関する質問	<p>問1 これまでの家庭科の授業で作った、身につけるものについて教えて下さい。</p> <p>問2 これまでの家庭科の授業で、最も役立つ被服分野の製作技術について教えて下さい。</p> <p>問3 大学では「被服製作実習」・「服飾制作実習」・「服飾文化実習」など、パジャマやブラウス、浴衣を作る実習の授業がありますが、履修したいと思いますか(あるいは履修した経験はありますか)。 ①積極的に履修したい(履修した経験がある) ②機会があれば履修したい ③あまり履修したくない ④まったく履修したくない</p> <p>問4 上記のように回答した理由について教えて下さい。</p> <p>問5 大学で服を作る実習の授業は、どのような内容ならば履修したいと思いますか。</p> <p>問6 上記のように回答した理由について教えて下さい。</p>

表2 子ども服の購入場所

購入場所	回答者数	購入場所は固定or流動	回答者数
ファストファッションの店	18名 (19%)	決まっていた	5名 (6%)
子供用品の専門店 (路面店)	6名 (6%)	ほぼ決まっていた	50名 (57%)
ショッピングモールにある店	47名 (49%)	ほとんど決まっていなかった	30名 (34%)
デパートにある店	13名 (14%)	まったく決まっていなかった	3名 (3%)
その他の店	1名 (1%)		
リサイクルショップ (古着屋)	0名 (0%)		
フリーマーケット	0名 (0%)		
インターネット通販・オークションサイト	2名 (2%)		
カタログ通販	4名 (4%)		
人からのもらいもの	4名 (4%)		
その他	1名 (1%)		

表3 子ども服にまつわる思い出

項目	嬉しかった思い出
購入	<ul style="list-style-type: none"> ・お気に入りの服・好みの服・自分で選んだ服をかわいいと褒められた ・デザインがかわいい好みの服や流行りの服を購入、自分のための服 (お下がりではない服) を購入 ・値段が高い服の購入、高い服を安価に購入 ・新しい服をたくさん購入
着装	<ul style="list-style-type: none"> ・よそ行きの時にかわいい服を着用 (ピンク色・好きなキャラクター) ・制服のデザインがかわいかった ・母や妹とお揃いの衣類を着用
お下がり・手作り	<ul style="list-style-type: none"> ・かわいいお下がりの服をたくさん譲り受けた ・自分のお下がり喜んで大切にしてくれた ・祖母や母が服をたくさん手作り (衣類の修繕、リメイク、ネーム入れ) ・自分が作った子ども服を知り合いの子どもが着てくれた
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズが次第に大きくなり、自分が成長していることが分かった ・思い出がない
項目	困った思い出・要望
サイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズが合わない、サイズ選びが難しい ・サイズがすぐ合わなくなるのに高価 ・サイズとデザインの好み合わない
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・流行りの服や店のおすすめ品 (ファストファッションの商品) はデザインが被る ・子ども服に似合うものや好みのものがなかった、子どもっぽさを演出するデザイン ・親と自分の好みのデザインが違った
安全性・機能性	<ul style="list-style-type: none"> ・服の危険性 ・かわいいデザインの服は動きづらい ・一人での着脱が困難な服
素材	<ul style="list-style-type: none"> ・肌が弱いので着用できない服があった ・新品の服が初めて着た日に破れた ・すぐに汚れるが汚れがなかなか落ちずに染みになる、汚しても良いかわい服や汚れにくい服が欲しい
着装	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好みや気分合わない服を着させられた ・毎日同じ服 (コーディネート) を着ていたら年下の子に「ダサイ」と言われた ・私服の際に着るものに困った
お下がり・手作り	<ul style="list-style-type: none"> ・お下がりが多いために同じデザインの服を長期にわたり着用、お下がりの好みやサイズが合わない ・姉妹でお揃いや色違いの服ばかりを着させられた ・お下がりや手作りの衣類の状態が悪い
その他・要望	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌掲載の服は高級ブランドばかりで、親におねだりできなかった ・最近の子ども服はお洒落になり過ぎ ・安く多様なデザインの服を販売して欲しい (かわいく着続けられるサイズ感の服、ユニセックスな服) ・特になし、覚えていない

表4 手作りの長所・短所

項目	長所(メリット)	短所(デメリット)
デザイン	17名(18%)	9名(10%)
品質	4名(4%)	29名(33%)
価格	9名(10%)	1名(1%)
機能性(動きやすさ)	1名(1%)	9名(10%)
素材(手入れのしやすさ)	5名(5%)	14名(16%)
希少価値	46名(49%)	
流行との関係		19名(22%)
その他	10名(11%)	5名(6%)

表5 授業外での手作り経験

小学校	<u>ワンピース、アクセサリ類(髪飾り・ブレスレット・ミサンガ)、バッグ(巾着・ショルダーバッグ・手さげ・小物入れ)、マフラー、エプロン</u> よだれかけ、パジャマ、人形用の服、ポケットティッシュケース
中学校	<u>ワンピース、アクセサリ類(髪飾り)、バッグ(ナップサック)、マフラー、スカート、シャツ</u> オールインワン、帽子、浴衣、半纏、コンサート用の服、ロリータ服
高等学校	<u>ワンピース、アクセサリ類(髪飾り)、バッグ(巾着・体操着袋・絵本袋)、マフラー、エプロン、スカート、シャツ</u> 手袋、体育祭用・文化祭用の衣装、部活の衣装、ロリータ服、ティッシュカバー、ブックカバー
大学	<u>ワンピース、アクセサリ類(ヘアバンド)、スカート</u> オールインワン
時期不明	<u>ワンピース、アクセサリ類(髪飾り・ネックレス・ピアス・ブレスレット・ミサンガ)、バッグ(巾着)、エプロン、スカート、シャツ</u>
ない理由	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫や手芸が苦手、手先が不器用 ・自分で作るという発想・こだわり・時間・機会がなかった ・服以外なら作った経験がある、小物を作るの方が好き ・既製品を購入の方が効率的、購入した方が長く使える、手作りだと思われると身に着けるのが恥ずかしい

表6 家庭科の授業における製作物と製作技術

	製作物	製作技術
小学校	衣服や装飾品	<u>エプロン、マフラー、アクセサリ類(髪飾り(シュシュ)・ミサンガ)</u> 製作物 <u>ミシンやアイロンの使い方、基本的な手縫いの仕方(まつり縫い・本返し縫い・なみ縫い・玉どめ・玉結び・糸通し)、ボタンやスナップの付け方、装飾の仕方、編み物、サイズの測り方、古着のリユース</u>
	鞆や小物	バッグ(ナップサック・トートバッグ・手さげ)、ティッシュボックスカバー、たわし 製作物 バッグ(巾着)、ハンカチ
	なし	なし、覚えていない
中学校	衣服や装飾品	<u>エプロン、マフラー、帽子、ズボン(ハーフパンツ・ショートパンツ・キュロット)、スカート、オーバーオール</u> 製作物 <u>ミシンやアイロンの使い方、基本的な手縫いの仕方(まつり縫い・返し縫い・かざり縫い・かがり縫い・運針・かがりどめ)、ボタンやスナップの付け方、装飾の仕方(アップリケ・刺繍)、編み物、サイズの測り方(型紙)</u>
	鞆や小物	バッグ(ナップサック・トートバッグ)、ティッシュボックスカバー、たわし、ティッシュケース、お弁当箱入れ、箸入れ、手袋型の掃除用具、腕カバー、CDケースのカバー、ブックカバー、フェルトの絵本、ぬいぐるみ、刺繍入りのハンカチ、名札、ルームシューズ 製作物 バッグ(巾着)、ブックカバー ポケット、袖、襟
	なし、覚えていない	なし、覚えていない
高等学校	衣服や装飾品	<u>エプロン、マフラー(ネックウォーマー)、帽子、ズボン(ショートパンツ)、ブラウス、ノースリーブパーカー、パジャマ、浴衣、半纏、割烹着、甚平</u> 製作物 <u>ミシンやアイロンの使い方、基本的な手縫いの仕方(まつり縫い・しつけ縫い・運針)、ボタンの付け方、装飾の仕方(刺繍)、編み物、サイズの測り方(型紙の作成法や使用法)、パソコン上でのデザイン、藍染め、素材</u>
	鞆や小物	バッグ(リュック・巾着)、ティッシュボックスカバー、たわし、ティッシュケース、ベットボトルホルダー、筆箱、バンドナ 製作物 たわし、ティッシュケース、筆箱、ブラウスをリメイクしたエプロン、和服フード
	なし、覚えていない	なし、覚えていない

表7 大学での被服製作に関する授業の履修

被服製作への興味・関心	<ul style="list-style-type: none"> ・服作りや裁縫、デザインが好きで被服製作に興味がある、被服の学習は楽しい ・普段から自身の服を作っている、授業などの機会がないと自分で作らない、授業で苦手を克服したい ・将来のために女子力を上げたい、いつか役立つ ・家庭科が嫌い、服作りに興味がない、一度も作った経験がない
製作する対象	<ul style="list-style-type: none"> ・好きなデザインを手に入れられる ・オールシーズン着られる衣服を作りたい ・これまでの授業で作った経験がない衣類を作りたい
製作能力	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の下で学習したい、欲しいデザインの服を得られる技術を習得したい ・不器用で裁縫やミシンが苦手・難しそう・大変そう・自信がない・不安 ・自身の能力では売っている服にかなわないので着ることができず、使わない物が増える（買った方がよい）
手作り	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の授業ならば手作りだと周囲からばれないと思う ・使う機会がない
履修	<ul style="list-style-type: none"> ・服について勉強したい（服の構造や型紙）、教職を取っている ・履修可能かが分からない

表8 大学での被服製作に関する授業への要望とその理由

授業で扱う内容	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの使い方や生地選びなど基礎を教えてください ・日常生活で役立つ知識や技術を得られる（ほつれ・穴あき・裾上げなどの補修技術・ボタンつけ） ・マイナーな知識を身につける（染織）、製作技術や教え方を学ぶことができる ・デザインから型紙の作成まで教えてください、立体的に寸法を測る方法を知りたい
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業をしっかりと受けなかったのでミシンの使い方を忘れている ・学問ではなくスキルとして得られるものがあるなら受講したい、応用が利く技術を身につけた方が実生活でも生かせる（自分で衣類の修繕ができれば経済的） ・大学でなければできないことを学びたい、将来の自分の夢 ・服を作る意味はデザイン性にあるので型紙から着たい服を作りたい
製作する対象	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活で使えそうな衣類や長く使える衣服の製作 ・浴衣・部屋着・ワンピース・コート・スカート・シャツ・バッグ・アクセサリ・子ども服を作る ・デザイン性の高い服を作る、好きな服をデザインする ・リメイクやアレンジの技術を知る
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で使えない物ばかり作ったから、日常生活で使える物を作って授業以外でも自らの生活に取り入れたい、普段着の方が興味がわく ・日常着だと手作りと思われるのが嫌だから、デザインや技術に自信がなく他人に見られるのは恥ずかしい嫌なので部屋着であれば気楽に作れる、好みやサイズの合うものが少ないので自分で作りたい、母親になった時に役立つ、自分の技術では服を作っても大人では着られない ・自分の好みやデザインの物なら作る意欲がわく、既製品にはない柄の服が出来る ・サイズや好みの変化で着られなくなった服がある
製作能力	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・不器用な人でも、初心者でもできる ・専門的な内容でない、基礎的なことをゆっくり教えて欲しい ・簡単に基本的な物から始めて少しずつ難度を上げる ・自分の製作技術にあった物を選んで作る
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫やミシンが苦手・下手・自信がない・不安、作った経験がない、好きでも得意ではない（興味はあるが知識や技術がないので器用な女の子の中に入るの気が引ける） ・専門的過ぎると授業で習ってもそれ以降は使わないのでやらなくても良い、簡単に作れた方が良い ・最初から応用的な物だと目標が高すぎてやる気が起きない、基本を身につけた後に自分でアレンジしたい、色々作って技術を向上させたい ・製作物が決まっていると見合った技術がない人には難しい
授業の形態	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートが手厚くわかりやすい指示がある、短期集中で全履修者に目が行き届く教員数の確保 ・実習時間に余裕があり課題が負担にならない、経済的に役に立つことが学べる ・製作して提出することで単位習得可能、上手・下手で評価されない
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業では全体的な指導だったため細かい部分が曖昧なまま終わった（1クラスに教員1人で効率が悪い） ・時間に余裕があれば技術に自信がなくとも取り組める、家で取り組む時間的余裕と金銭的余裕がない ・出来ばえや技術力が成績に反映される割合が大きいと初心者は履修を避ける
その他	要望	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような内容でも良い ・履修したくない
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・必修の授業ならば諦めて受講するしかない ・服は必ず失敗するので買ってしまった方が経済的にも精神的にもやさしい